

週報

令和 5 年 9 月 8 日
2023~2024年度 No. 9

2023-24年度 国際ロータリーのテーマ

Rotary



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー会長 ゴードンR.マッキナリー

プログラム

S A A 藤川 博士君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「我らの生業」

☆四つのテスト斉唱

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

「基本的教育と識字率向上月間卓話」

橋本 武敏君

☆点 鐘

現在会員					28名					前々回の欠席者(8/25)					3名	
本日	出席	17名			欠席	4名				免除(a)欠席	3名		出席率	80.95%		
									免除(b)欠席	4名						
前々回	出席	17名			MU	2名				免除(a)MU	3名		修正出席率	86.36%		
									免除(b)MU	3名						
月別出席率%		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6			
	本年度	77.26	83.66													
	前年度	82.97	81.16	84.53	81.69	91.84	91.44	90.16	93.48	96.87	83.80	85.93	89.39			

例会場
例 会
事務所
カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
金曜日(12時30分~13時30分)
長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 平 村 和 弘
副 会 長 山 里 一 郎
幹 事 松 岡 孝 博
雑誌:会報委員長 寺 澤 信 義

会長の時間

会長 平村 和弘君

それでは会長の時間を始めさせていただきます。

本日は、自動車のタイヤについてお話しさせていただきます。お配りのタイヤ断面図をご覧ください。チューブレスタイヤの構造を簡単に説明します。

まず、直接地面に接しているキャップトレッド部。タイヤ内側のカーカス（コード層）を保護しており、厚いゴム層で出来ています。表面には様々なトレッドパターンが刻まれています。次にショルダー部。タイヤの肩の部分になります。役割としては内側のカーカスの保護と、走行中に発生する熱を放出するように設計されています。

続いて、サイドウォール部。タイヤの側面部分です。走行中に最もたわむ部分で、カーカス保護のため表面はゴム層で覆われています。また、この部分にタイヤのサイズやブランド名、メーカー名などが表示されています。

ホイールと接している部分がビード部です。カーカスの末端を支持し、タイヤをホイールのリム部にしっかりと固定する部分です。

トレッドとカーカスの間に、円周方向に貼られている補強層がベルトと呼ばれています。カーカスを桶の「たが」のように締め付けることで衝撃を緩和し、外傷がカーカスに及ぶことを防ぎます。また、ゴム層とカーカスの剥離を防ぐ働きもしています。

続いてカーカス。タイヤの骨格を形成する、ゴムで被覆された繊維やスチールで構成されたコード層のことです。斜めまたは放射状に貼り合わされ、空気圧を保ち荷重や衝撃に耐えてタイヤ構造を保持する役割を持っています。インナーライナーは、カーカスの内側にあるゴム層です。空気透過性の少ない特殊なゴムで、空気圧を保持するためのものです。

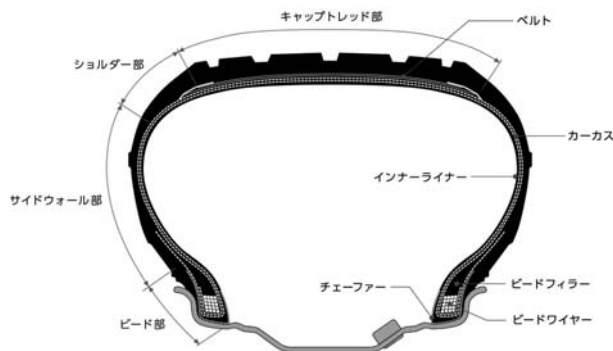
ビードフィラーは、ビード部の剛性を高める断面が三角形の補強ゴム層。ビードワイヤーはピアノ線を束ねたリング状の補強材で、チェーファーはカーカスがリムに触れて損傷しないための補強材です。以上がチューブレスタイヤの構造です。

続いて、タイヤの空気圧について少し説明いたします。空気圧が高すぎると、タイヤの中央部が盛り上がり接地面が減ってしまいます。その為、タイヤの中央部の摩耗が早くなります。また振動が吸収されにくく、乗り心地が悪くなります。

空気圧が低すぎると、タイヤの接地面がつぶれ

て両端に負荷がかかります。その結果、タイヤの摩耗が早い、偏摩耗をしてしまう、転がり抵抗が増して燃費が悪くなる、タイヤのたわみが増え操縦安定性が悪くなる（特に高速走行時）等の問題が発生してしまいます。タイヤの空気圧は少しずつ減少していきますので、定期的にチェックをしていただき、安全なカーライフを送っていただければと思います。

以上で会長の時間を終わります。



幹事報告

幹事 松岡 孝博君

【当クラブ関係】

- 本日 9月8日開催される長崎出島ロータリークラブ創立25周年記念式典に、平村会長と片山会長エレクトが出席します。
- 9月10日（日）8時より「ロータリー奉仕デー美化プロジェクト」として、鏡瀬溶岩海岸の清掃活動を福江中央ロータリークラブと合同で行います。最終報告が後ほど社会奉仕委員長の張本さんよりございます。
- 9月16日（土）12時30分より職業奉仕セミナーが諫早の鎮西学園で開催され、福江ロータリークラブからは職業奉仕委員長に私用ができた為、私が出席します。
- 親睦委員会より報告があっていますが、観月会を、9月29日（金）18時30分より崎山港近くのホテル&カフェレストラン木馬で開催しますので、よろしく申し上げます。

なお、当日の昼の例会は通常通りに行いますので、お間違いのないようお願いします。

【地区関係】

- 長崎南ロータリークラブより例会休会および変更のお知らせが届いています。
- 長崎出島ロータリークラブより例会変更・休会のお知らせが届いています。

- 長崎東ロータリークラブより例会休会と変更のお知らせが届いています。
- 長崎ロータリークラブより例会休会のお知らせが届いています。
- 長崎みなとロータリークラブより例会休会のお知らせが届いています。
- 長崎北東ロータリークラブより例会休会のお知らせが届いています。

【その他】

- 福江中央ロータリークラブより、週報4, 5, 6号が届いています。
- 今月のロータリーレートは1ドル146円です。

委員会報告

出席報告

- ◆ 9月8日（免除(a)欠席者）
中村 博義君 中村 吉廣君 植松 郁雄君
- ◆ 9月8日（免除(b)欠席者）
谷川 和啓君 佐々野邦久君 吉田 泰之君
清瀧 誠司君
- ◆ 9月8日欠席者
坂井 成光君 小畑 和男君 三村 剛孝君
山口 裕之君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇中村 栄治君 9月のスマイル会定例ゴルフコンペで優勝いたしました。
- ◇張本 民雄君 明後日のロータリー奉仕、宜しくお願いします。
中村栄治君、スマイル会優勝おめでとうございます。
- ◇橋本 武敏君 本日は部内卓話をさせていただきます。宜しくお願いします。
- ◇平村 和弘君 橋本武敏君、本日は部内卓話宜しくお願いいたします。
- ◇山里 一郎君 ”
- ◇松岡 孝博君 ”
- ◇柳田 靖夫君 ”
- ◇才津 喜彦君 ”
- ◇片山 雅文君 ”

- ◇神之浦文彦君 ”
- ◇山下 克己君 ”
- ◇西上裕一郎君 ”
- ◇寺澤 信義君 ”
- ◇有川 真史君 ”
- ◇藤川 博士君 ”
- ◇戸田 博之君 早退奉仕。
- ◇山下 実君 ”

合計 19,000円
通算合計 182,000円

部内卓話

「基本的教育と識字率向上月間卓話」

橋本 武敏君



さて、みなさん、今日9月8日は何の日がご存じでしょうか？

ネットで調べてみたところ、1951年（昭和26年、今から72年前）の9月8日、第二次世界大戦における連合国諸国と日本の間で日米安全保障条約、いわゆるサンフランシスコ平和（講話）条約が調印された日だそうです。

その他にも、1930年（昭和5年、今から93年前）、アメリカの会社、3M社が開発したセロハンテープの一般販売が開始された日。そして、最近では2018年（平成30年）テニスの四大大会グランドスラムのひとつ全米オープンテニスで、大坂なおみ選手が男女通じて日本人選手初となる四大大会シングルス優勝を達成した日だそうです。

ところで、プログラム委員長の私が今日9月8日を「基本的教育と識字率向上月間卓話」の日にしたのは、実は理由があります。それは、今日9月8日は、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が制定した「世界識字デー」だからです。

そして、この「世界識字デー」の存在こそが、ロータリークラブが毎年9月を「基本的教育と識字率向上月間」と定めた所以だと思われま。したがって、まずはこの国際識字デーについて調べ

たことをご紹介します。

まず、ユネスコとはみなさんご承知の通り、世界の教育・科学・文化の発展と推進を目指す国連の専門機関ですが、ユネスコが国際識字デーを制定した狙いは、世界中の国々や人々に識字の重要性を訴えるとともに、世界の識字率を向上させること、これが狙いです。では、「識字」とは何か。識字とは「文字を読み書きし、理解できること、またその能力」のことで、また「識字率」とは、「日常生活に必要な簡単な文章を読み書きできる15歳以上の人の割合」だそうです。

では、なぜ9月8日が国際識字デーとされたのか、それは1965年（今から58年前）の9月8日、イランのテヘランで世界各国の文部大臣が集まり、教育のあり方について話し合う会議が開催されたことにあります。この会議で、イランのパーレビ国王が各国の軍事費の一部を識字教育に充てることを提案しました。そして、その会議終了後、パーレビ国王の提案を受けてアメリカのジョンソン大統領が、アメリカ議会で9月8日を「国際識字デー」に定めることを呼びかけます。そして、ユネスコが国際デーのひとつとして、国際識字デーを制定しました。そして、翌1966年（今から57年前の）9月8日、第1回目の国際識字デーが祝われたということです。

それでは、次にロータリークラブが「基本的教育と識字率向上月間」を制定した歴史、背景等を見てみます。

2014-15年度までは、ロータリークラブでは9月を「新世代のための月間」と定めていましたが、2015-16年度から現在の「基本的教育と識字率の向上月間」に変更されました。ちなみに、9月は「ロータリーの友月間」でもありますが、これは日本独自のものだそうです。

では、「基本的教育と識字率の向上月間」でロータリークラブは何をしようとしているのか、それは、2014年10月のR I理事会が、次のように定めています。

- ①地域社会で基本的教育を普及し、識字能力を高めるためのプログラムを支援し、地域社会の参加を促進する。
- ②成人識字率を向上する。
- ③教育における男女格差を減らすために活動する。
- ④基本的教育と識字率向上に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人のために奨学金支援をする。

となっています。

そして、具体的に、何を、どのように進めれば

よいのか、具体例を挙げながら分かりやすく解説しているのが、皆様に配布しています資料になります。では、この資料を使って少し詳しく見たいと思います。1ページをご覧ください。

まず、前提として「基本的教育と識字率向上とは」、「世界には、子供たちが基本的な教育を受けられず、成人が十分に読み書きできない国や地域が有ります。そうした地域で基本的教育を提供し、識字率を上げれば、その他の諸問題の解決（貧困の削減、健康状態の改善、地域社会と経済の発展、平和構築など）の糸口をつかむことが出来ます。『基本的教育と識字率向上』は、ロータリーの6つの重点分野の一つとなっています」とあります。

そして、「基本的教育・識字率が重視される理由」として、

「全ての女性が初等教育を修了すれば、妊婦の死亡率は66%減少する」

「読み書きのできる母親を持つ子どもは、読み書きのできない母親の子と比べて、5歳以上まで生き延びる確率が50%高い」

「低所得国で全生徒が読み書きを習得した場合、1億7,100万人が貧困から抜け出すことが出来る。これは全世界の貧困の12%に相当する。」とあります。

そして、「世界的に、教育・識字の分野では進展が見られています。2014年国連ミレニアム開発目標の報告書によると、成人と青少年の識字率は上がっており、男女差も縮まっています。しかし、まだ多くの面で課題が残されています」。

それは、

「世界で5,800万人の子供が、学校に通っていない」

「4年間の初等教育を受けた後も読み書きのできない子どもが2億5,000万人いる」

「7億8,100万人の成人が読み書きできない」ということです。

そして、次のページからは、世界各地のロータリークラブが基本的教育の提供と識字率向上を目指してどのような活動に取り組んでいるのか、その事例や、活動に当たって事前に調査すべき点やリソースを最大限に活用する方法を紹介していますので、時間があるときに是非一度目を通していただきたいと思います。

しかし、前もって言うておきますが、この資料を読み進みにつれ、おそらく皆さん同じ疑問が湧いてくると思います。

それは、「じゃあ、私たちに何が出来るのか」ということです。

というのも、私たち日本人は「基本的教育」や「識字率向上」などという言葉自体を日常生活において、あまり使う機会がありません。ましてや、ニュースなどで社会問題として取り上げられることもまずありません。つまり、私たちのように日本で活動するロータリアンにとって「基本的教育と識字率向上月間」そのものが縁遠い、そして(言葉は悪いですが)「関係ない」と感じてしまいます。

しかしながら、私たちが忘れてはいけないことは、私たちが所属するロータリークラブは国際組織であり、そして私たちはその一員であるということです。したがって、日本、そして五島にいる私たちも、もっと世界に目を向け、世界のロータリアンと共に世界各地の社会的課題に向き合い、その解決に向けて共に行動しなければなりません。

そこで、考えました。

私たち福江ロータリークラブでは毎月一回例会時に、ロータリー財団委員会が「超我の奉仕ボックス」を持ち回り、募金の協力を求めています。この超我の奉仕ボックスを9月だけ(例えば)「基本的教育と識字率向上奉仕ボックス」という名前に変えてみてはどうでしょうか。もちろん、集められた寄付は、他の月に集められたお金と一緒にまとめて、ロータリー財団に寄付されることになるとは思いますが、実はこのロータリー財団が、(五島にいる) 私たちに代わって、世界の基本的教育と識字率向上を支援してくれます。

では、ロータリー財団は私たちの寄付を財源として、具体的にどのような支援・活動をしているのか、いくつか紹介します。

「学校をつくる」

アフガニスタンでは、貧困の連鎖を断ち切り、教育の不平等をなくすために、ロータリー会員が女子学校をつくりました。

「成人のための教育」

米国デトロイトでは、成人の半数以上が十分な識字力をもたないと言われていました。このような状況を受け、地元の非営利団体「ProLiteracy」と協力して、成人への個人指導を行う講師を募集し、研修を実施しました。

「学校における水と衛生設備の改善」

レバノンでは、生徒たちが元気に授業を受けられるよう、すべての公立学校にきれいな水を提供する設備を整えました。

以上。つまり、私たちは寄付によってこれらの活動に参加することができるわけです。

是非、9月の「超我の奉仕ボックス」を「基本

的教育と識字率向上奉仕ボックス」に名称変更し、みなさんの参加意識を高めてみてはいかがでしょうか。

それでは最後になりますが、冒頭で取り上げた今日9月8日「国際識字デー」にちなんで、世界ではどんなことが行われているのか、ロータリークラブ以外の団体や組織による活動について、いくつかご紹介したいと思います。

「世界寺子屋運動」

1989年から30年以上続いている「世界寺子屋運動」は「日本ユネスコ協会連盟」が実施している活動です。江戸時代に子どもたちに読み・書き・そろばんなどを教えた日本の「寺小屋」を発展途上国に作り、誰でも読み書きや計算ができるような教育機会を提供しています。

現在は、アフガニスタンやカンボジアなど40か国以上、約124万人の子どもや大人が寺子屋で学んでいます。

ちなみに、江戸時代。日本の庶民の識字率は抜きん出て世界一だったそうです。例えば、江戸時代の幕末期においては、武士はほぼ100%読み書きができ、一般の庶民層でも男子で49~54%は読み書きができたそうです。対して、同時代のイギリスでは下層庶民の場合、首都ロンドンでも字が読める子供は10%に満たなかったそうです。

「図書館事業や学校建設事業」

「シャンティ国際ボランティア会」は、人が「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和な社会を目指した日本の公益社団法人です。ちなみに「シャンティ」とはサンスクリット語で、平和や平安を意味する言葉で、日本ではヨガで使われる用語として知られている外来語です。この「シャンティ国際ボランティア会」が図書館事業や学校建設事業をはじめ、カンボジアでの識字教室開催、国内での各種イベント、世界寺子屋運動への協力など、精力的な活動をおこなっています。

「チャイルド・スポンサーシップ」

キリスト教精神に基づいた国際協力NGO「ワールドビジョン」も、世界の識字率を上げる取り組みをおこなっています。1日150円からの継続的な寄付を募る「チャイルド・スポンサーシップ」を中心とした開発援助や緊急人道支援などを通じ、発展途上国の教育環境を整えたり、学校教育を補うための教育支援、定期的な教員の研修などをおこなっています。

以上で基本的教育と識字率向上月間卓話を終わります。ご清聴ありがとうございました。